

★学校評価の概要 ～まとめと次年度へ向けて～

(1) 学校教育全体の状況

- コロナ禍の行動制限に伴い構築しました学校の「新しい形」を5類移行後も継続し、断固たる決意を持って教育活動に努めてきました。学校は「楽しい」「やや楽しい」と9割近くの生徒が回答していますし、学校行事や生徒会活動の充実度に対する保護者の方々からの回答も年々良くなってきていますので、学校の取り組みに対して一定の支持を得ていると考えています。今後も働き方改革とのバランスを取りながら、マイナスの評価や個々の意見に目を向け、要望について、改善できるところは応えていきたいと思えます。
- 「わかりやすい授業」について、生徒の「そう思う」の回答は昨年度を上回っていますが、「やや思う」の回答も合わせてみれば、生徒、保護者の方々ともに、昨年度に比べて評価が下がっています。話し合い活動や実験・実技が制限なくできるようになっていますし、生徒のChromebookの扱いも上達してきていますので、それらを効果的に活用する指導方法を研究し、授業改善を図っていききたいと思えます。
- 図書館の活用については数年来の懸案です。朝読書に対する生徒評価も昨年度に比べ低下していますので、図書館司書とも連携をしつつ、読書活動について考えていききたいと思えます。

(2) 学校運営の状況

- 生徒の安全確保について、保護者の方々から今年度も安定した評価を得ています。しかし、「そう思う」の回答だけみれば、昨年度に比べて下がっています。感染症対策、いじめや不登校対策、大規模な災害時における対応など、安心・安全に関する意識が非常に高まり、要望等も年々増加しています。情勢を注視しながら感染症対策を進め、組織的ないじめ・不登校対応、不審者対応や避難訓練のあり方について、生徒や保護者の方々、地域の方々の願いに沿ったものにし、今後も一層、生徒が安心して通える学校づくりに努めていききたいと思えます。
- 公開授業、学校だより、ホームページ等で、学校の様子を伝えています。保護者アンケートでは、それに対する「そう思う」の回答が昨年度を上回り、「やや思う」の回答を合わせてみても95%を超え、高評価を得ています。しかし、地域の方々の評価はそれほど良くなく、「学校のことがまったくわからない」という回答も多くいただいています。開かれた学校として、地域や保護者の方々により伝わる方法をさらに考えていききたいと思えます。

(3) 教育活動の状況

- あいさつ、マナーを守るといった基本的な生活習慣について、生徒、保護者の方々、地域の方々すべてで「そう思う」の回答が昨年度を下回っています。「やや思う」の回答を合わせてみれば高い評価を維持していますが、話を聞く姿勢や言葉遣いなどの生徒評価も昨年度に比べ低下していますので、生活習慣が乱れていかないように全校体制で徹底を図る必要があります。今後も、落ち着いて学校生活を送り、集中して授業に取り組める環境づくりに努めていききたいと思えます。

- 小規模校の特性を生かし、生徒一人一人に寄り添ったきめ細かな指導を心がけてきました。教師に対する生徒の評価が昨年度に比べ良くなっているのは、その熱意が伝わっているからだと考えています。わかる授業の実践、生徒への温かい言葉がけや支援が、生徒からの信頼を得て、保護者の方々、地域の方々への信頼感につながると思われます。教師と生徒の相互理解を深め、信頼度をより一層高めていきたいと思えます。

(4) その他

- 今年度、新型コロナウイルス感染症の5類移行と関係者の方々のご尽力により、多くの地域行事が復活開催されました。生徒のボランティア活動の機会も回復し、積極的に参加しようとする生徒が徐々に増えてきました。地域との関わりが強いことが北方中学校の特徴です。学校運営協議会やPTA活動などを通して、学校理解の機会を増やすとともに、広報活動にも努めていきたいと思えます。
- コロナ禍における制限が解除されましたが、「機会があれば学校にボランティアとして出かきたい」という地域の方は3割に満たない状況にあります。今後、新たな地域人材の確保に向けて積極的に働きかけていくことが必要となってきています。